

## 法人化までとこれから

渡井 幾男

全国組織の透析医会をつくろうという呼びかけに、日頃仲よく勉強会をしていた札幌在住の透析医たちが、すぐに意見一致して、基盤となる「北海道透析医会」を結成したのが、昭和54年4月14日でした。

結成式には、当時の北海道医師会副会長の吉田 信先生（現北海道医師会会長）が出席されて勵ましの言葉を述べられたのは、記憶に新しいところです。

当初、すぐにも日本透析医会が出来、法人化も間もなくという勢いでしたが、どっこいそうはいかず、色々なことがあって、忍耐、忍耐の連続でしたが、遂に法人化の目的を達成したことは喜びに堪えません。苦勞してきた方々ほど、その喜びは大きなものでしょう。

私自身について言えば、この8年間、それまで全然知らなかった日本の医療社会の中の自分（達）の位置について、少しずつ勉強し、育てられてきたのを感じます。

どちらかと言うと、社会的に甘やかされていた面のあった医師が、近年、だんだん厳しく（厳しすぎる？）扱われるようになってきて居り、8年間かかって難産のすえ生れたこの社団法人日本透析医会は、我々が当初予想した姿とは違った面も具えた厳しい姿のもののように感じます。

この実感は、今まで法人設立に直接拘わった医師たちにはあるのですが、全国の透析医全体にこの厳しさが浸透するには、まだ少し時間がかかるかも知れないと思います。

厚生省、日本医師会とよく連携をとりながらも、日本透析療法学会では行ない得ない臨床透析の問題点をとりあげて行く、視野の広い、そして毅然とした医会になって行って欲しいものです。